

倉敷市中心市街地シェアサイクル導入促進事業（社会実験）の実施結果について

1 事業の目的

コロナ禍により来訪者が激減している倉敷美観地区を含む中心市街地において、コロナ収束後の新しいインバウンド対応を見据え、公共交通機関を利用して来訪される観光客等の移動利便性の向上を図るとともに、地域内の周遊を促進することを目的に、社会実験として実施したもの。

2 試行期間

令和2年9月17日（木）から
令和3年1月24日（日）まで

3 ステーション設置場所

倉敷市中心市街地周辺 9 箇所
(112 ラック, 電動アシスト付自転車 55 台)

4 試行結果

- ・利用回数は10月（447回、1日当たり平均14.4回）が最大。

1月（183回、1日当たり平均7.6回）が最小。

→10月には GoTo トラベルキャンペーンの対象に東京が追加され、観光客の往来が増えた影響も考えられる。11月以降は季節性による要因等により、利用回数が減少。

- ・曜日別利用回数は土曜日が最大、その他の曜日は同程度の利用回数となっている。平日は8時台と17～18時台、休日は14～18時台の時間帯の利用が多い。

→平日は通勤利用、休日は観光利用に活用されたと考えられる。コロナ禍による影響もあるが、観光客だけでなく、市民の足としても活用される結果となった。

- ・15分以内の利用者が全体の約半数を占めている。

→短距離移動（ちょい乗り）の需要に対応。

- ・深夜や早朝等、公共交通機関が運行していない時間に利用できることが便利との意見があった。

→公共交通を補完する移動手段として活用された。

- ・イオン倉敷や酒津公園、倉敷運動公園等、中心市街地外の目的地に向けた利用も多い。

→シェアサイクル導入により回遊の範囲が拡大。

5 考察

試行期間後に実施したアンケート調査では、イオン倉敷等へステーション設置箇所の拡大を求める声が多かった。30分以上の利用者の走行軌跡データには、酒津地区や藤戸地区等、広範囲の移動が見られることから、今後シェアサイクルの普及を進めるためには、中心市街地に限らず、高い利用回数が期待できる位置へのステーション設置を検討する必要がある。

また、周遊モデルの提案や周辺の観光情報の発信等、観光部局と連携して観光客への周知を図ることも必要と考えられる。

